

当院における cobas8000 の導入効果

人員削減と業務効率化を目指して

◎木浦 大典¹⁾、瀧元 香奈¹⁾、森 紗季¹⁾、松本 詩織¹⁾、藤岡 克徳¹⁾
公益財団法人 操風会 岡山旭東病院¹⁾

【はじめに】

昨今、検査技師には質の高い検査結果とタスクシフトに代表する課外への貢献が求められている。その為には、作業時間の削減と業務効率化を行い、技師の空き時間を創出することが課題となっている。今回、我々は生化学免疫統合自動分析装置である cobas8000 (c702/e801) の検討を行い、導入に至った。導入から数ヶ月経過したので導入効果を報告する。

【効果の検証】

まず、検査フローの簡略化によりヒューマンエラーの出現率が軽減した。それにより TAT が前年度に比べて 10% 短縮された。免疫分析装置：e801 においては前機種：e411 (ロシュ) に比べて試薬庫に冷蔵機能が追加されたことにより、試薬の安定性が向上した。また、それによりキャリブレーション頻度も減少することで業務負荷軽減とランニングコストの削減に繋がった。さらに本機種の特徴である試薬マネージャー機能により、分析機を止めることなく、測定中の試薬カセット投入が可能になった為、試薬補

充作業時間が削減された。加えて RFID による試薬管理機能のためすべての情報が機器上で管理でき、試薬管理を含めたメンテナンス時間が大幅に削減した。

【まとめ】

臨床の場へ赴くには、人員の増加や業務内容の見直しなど、他部門への働きかけを実施する必要がある。しかし機器に費やす時間を可能な限り短縮することでその時間を割くことができ、またタスクシフトの推進にも繋がると考えられる。創出した時間を他業務に当てることで臨床貢献を行っていきたい。

公益財団法人操風会 岡山旭東病院

診療技術部臨床検査課 086-276-3231 (内線：2115)